

NIKKEI The STYLE——クラシカル、自然のままに。

2019/07/21 日本経済新聞 朝刊 10ページ 1894文字

青空が広がった6月の朝、兵庫県川西市の鳴尾ゴルフ倶楽部に一風変わったパーティーの姿があった。「きょう1日、よろしくお願ひします」。笑顔であいさつを交わす40～70代の男性4人だが、服装に目を向けると、いずれもひざ下までのニッカボッカにハンチング帽のクラシカルないでたちだ。1920年創業の歴史あるゴルフ場の中でも、ひときわ目を引いていた。

第1打。ちょうネクタイに丸眼鏡の大阪府の会社社長、今西隆司さん（66）がウッドクラブを振り下ろすと、「コッ」と低く乾いた音とともにボールが飛んでいく。メタルやチタン製の高い金属音とはまるで違う打音にも、パーティーからは「ナイスショット」の声があがる。続くアイアンショットでも低い音を響かせ「芯に当たったときの音が何とも言えない」としたり顔だ。

4人は1920年代ごろまで主流だったヒッコリーの木製シャフトのウッドやアイアン、パター、もしくは同じスペックで新たに作ったクラブを使う「ヒッコリーゴルフ」の愛好家だ。シャフトは現在のクラブより重く、1割ほど短い。クラブに負担のかかる硬いボールは避け、ひと昔前の軟らかな糸巻きボールを主に使っている。

ショットを終えると、4人は談笑しながら小ぶりなキャディーバッグを肩に担いで歩き出す。電動カートまでクラブを取りに行く手間もなく、テンポ良くプレーが進む。セットアップの際はバッグを脇に置いたり、手作りのスタンドに立てかけたり、と芝生や木立の中で自然のままにプレーする姿がゴルフの原風景を感じさせた。

ヒッコリーゴルフは国内外で広がりを見せている。2005年には近代ゴルフ発祥の地とされる英国スコットランドで世界大会「ワールドヒッコリーオープン」が始まり、欧米やオーストリアなどから参加者が集う。14年、16年の覇者は、過去に男子ゴルフの全英オープンとマスターズを制した英国のサンディ・ライルさんで「メジャー4勝目」をうれしく思う」と当時、ジョークを交えて喜びを語ったという。

日本でも13年から作家、阿川佐和子さんの名前を冠したイベントなどが軽井沢や神戸、千葉など各地で開かれている。18年春には神戸市で第1回の全国大会「ジャパンヒッコリーオープン」が開催され、約40人が参加した。参加者の中からアマチュア男性3人が同年の世界大会に出場し、日本チームとして参加14カ国122人のなかで団体優勝も果たした。19年春には第2回全国大会が開かれ、秋に再び世界大会が予定されている。

なぜ、あえてヒッコリーなのか。同行した18ホールの中では200ヤードを超すティーショットもあり、うまく当たれば意外と飛ぶ印象だった。だが、ヘッドの芯が小さく、シャフトもしなるため、ボールを捉えるのが難しく、現代のクラブと比べて距離はでにくい。「平均飛距離は15%ぐらい落ちる」と今西さん。相棒となるクラブは4人とも規則いっばいの14本を下回る7～10本と少ない。アイアンはバウンス（底の出っ張り）が薄くて地面に刺さりやすく、芝生の長いラフや砂地のバンカーで苦戦する場面が何度もあった。

それでも、クラブに頼ってスコアを追い求めるより、ゴルフそのものを楽しみを見いだす人もいる。今西さんは「距離によってはクラブを短く持ち、コースの状況に応じてスイングの力を考えさせられる」と満足そうだ。大阪府の整形外科医、栗田正憲さん（73）は「昔の人の技術はすごい」と舌を巻く。ヒッコリーに対応し、力を抜き、タイミングや体の軸を意識したスイングが普段のゴルフにも生きているという。気になるスコアは、4人とも現代のクラブより「少し落ちるぐらい」だった。

伝統のファッションに身を包むことで、近代ゴルフの原風景に浸れる魅力を挙げる人も多い。国内のイベントではティーパーティーも催され、クラシカルないでたちで「社交の場」を楽しみに訪れる人もいるという。

「ニッカボッカといえば（1999年に飛行機事故で急逝したメジャー3勝の）ペイン・スチュワート。彼を見てかっこいいと思ったんだ」「20～30年代に活躍したジーン・サラゼンがサンドウェッジを作ったという話には異論もあるみたいだよ」

6月下旬、長野県軽井沢町の晴山ゴルフ場でヒッコリーゴルフを楽しんだ男女4人のパーティーは近くのオープンカフェに移動し、かつての名ゴルファーたちの話に花を咲かせた。画家の鈴木猛さん（75）は「気の合った人が集まってくつろげるのがいい」と言い、会社社長の高柳絢さん（42）は「ゴルフはスコアだけではない。落ち着いた社交の場としての居心地の良さがここにある」とほほ笑んだ。

許諾番号30081433 日本経済新聞社が記事利用を許諾しています。

本サービスで提供される記事、写真、図表、見出しその他の情報(以下「情報」)の著作権その他の知的財産権は、その情報提供者に帰属します。
本サービスで提供される情報の無断転載を禁止します。
本サービスは、方法の如何、有償無償を問わず、契約者以外の第三者に利用させることはできません。
Copyrights © 日本経済新聞社 Nikkei Inc. All Rights Reserved.